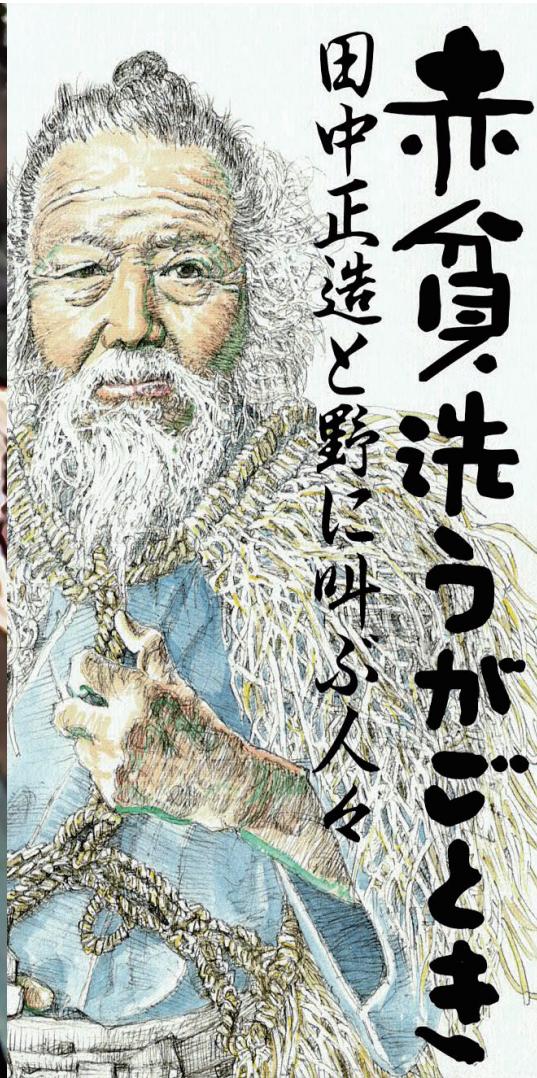




教えられなかつた戦争・沖縄編  
—阿波根昌鴻・伊江島のたたかい—



荒野に希望の灯をともす  
医師・中村哲 現地活動35年の軌跡



田中正造と野に叫ぶ人々

阿波根昌鴻

**3/29(土)**

13:30-15:20  
(開場 13:00)

中村哲

**3/29(土)**

15:40-17:10  
(開場 15:20)

中村哲

**4/23(水)**

17:15-18:45  
(開場 16:45)

田中正造

**4/23(水)**

19:00-20:37  
(開場 18:45)

## 中軽井沢図書館 2階 多目的室

軽井沢町長倉3037-18 中軽井沢駅

いい映画を観よう実行委員会では、今後も上映会を続けていきたいと考えています。

お手伝いくださる方を随時募集しています。

集会、地区公民館、お店等での出張上映会もいたしますので、お気軽にご相談ください。

主催 いい映画を観よう実行委員会

090-8042-6572

入場無料

カンパのご協力をお願いします。  
ペシャワール会への寄付と、チラシ代等の経費に使わせていただきます。

定員50名様

〔当日先着 10名様  
ネット予約 40名様〕

駐車場は 町営 中軽井沢駅前駐車場（中軽井沢駅 東側）をご利用下さい。

上映会後に図書館カウンターへ駐車券を持参し、無料券をお受け取りください。

インターネット予約・詳細情報

<https://goodmovies.show-room.jp>

電話予約 090-9357-2291 (まるやま 8:00~13:00)



## 作品紹介

教えられなかつた戦争。沖縄編  
—阿波根昌鴻・伊江島のたたかい—



私たちの平和運動は、米軍基地を日本からなくしただけでは終わらない。平和憲法を世界に広め、地球上から戦争も武器もなくす。そして地球の資源をすべての人で平等に分け合える社会、能力に応じて働き、必要なだけ受け取れる社会を築くまで続けるのです。

阿波根昌鴻さん

阿波根さんは戦後の伊江島土地闘争において、命を守るために土地を守るのだから、土地を守るたたかいで命をなくしてはいけないといい、穏やかに相手を説得し、敵の中に味方を作つていくというしなやかなしたたかん沖縄のたたかいを実行されました。

石原昌家さん（沖縄国際大学教授）

反戦平和資料館を通して願うことは、戦争のすさまじさ、愚かさを伝え、命の大切さ、一度と戦争があつてはいけないということを知つてもううことです。

謝花悦子さん（「やすらぎの家」代表）

63才で中央労働学院に入学した阿波根さんは、こちらが圧倒されるぐらいたまな態度で勉強されました。科学的社会主义を学んで、世の中のこれまでのことが全部ひっくりかえるような新しい喜び、学ぶ喜びを感じていたあの顔付きを今でも思い出します。

阿波根さんが中央労働学院で学んだ畠田重夫さん

荒野に希望の灯をともす  
医師・中村哲現地活動35年の軌跡



アフガニスタンとパキスタンで35年にわたり、病や戦乱、そして干ばつに苦しむ人々に寄り添いながら命を救い、生きる手助けをしてきた医師・中村哲。

NGO 平和医療団日本（PMS）を率いて、医療支援と用水路の建設を行つてきた。

活動において特筆すべきことは、その長さだけでなく、支援の姿勢がまったくぶれることなく、一貫していたことだ。一連の活動は世界から高く評価され、中村医師は人々から信頼され、愛されてきました。

いま、アフガニスタンに建設した用水路群の水が、かつての干ばつの大地を恵み豊かな緑野に変え、65万人の命を支えている。

しかし、2019年12月。用水路建設現場へ向かう途中、中村医師は何者かの凶弾に倒れた。その突然の死は多くの人々に深い悲しみをもたらした。

だが、一方で私たちに強く問いかける。中村医師が命を賭して遺した物は何なのか、その視線の先に目指していたものは何なのか。

中村哲が遺した文章と 1000 時間に及ぶ記録映像をもとに、現地活動の実践と思想をひも解く。

赤き歎泣うがごとき  
田中正造と野に叫ぶ人々

■あらすじ

日光・足尾山地を源流とする渡良瀬川、その恵を受けて沿岸では農業と漁業が盛んであった。

そこに明治の時代、日本の近代化、富国強兵策のもと、世界有数の規模を持つ足尾銅山が誕生した。しかし銅の生産による煙害で山は

禿山となり保水能力を失い、豊な村々を大量の鉛毒を含んだ大洪水が襲つた。魚は死に、農作物は枯れ、人の命までもが損なわれていった。被害農民たちは命をかけて立ち上がり、その中心にあり運動を指導したのは、「予は下野の百姓なり」という田中正造であった。

鉛毒の原点といわれる足尾鉛毒問題に生涯をかけて闘つた田中正造と多くの「野に叫ぶ人々」。

鉛毒を隠し銅山を守ろうとする明治政府の姿勢に異議を唱える多くの人々と勇気ある行動。ドキュメンタリーだからこそ描ききれた眞実。環境・命の問題が真剣に考えられなければならない現在、田中正造と野に叫ぶ人々が今、私たちに語りかける。

「眞の文明は山を荒らさず川を荒らさず  
村を破らず人を殺さざるべし」

